

令和6年度第1回伊賀市子ども健全育成施策検討委員会 会議録

■開催日時：2024（令和6）年10月23日（水）午後2時30分～4時30分

■開催場所：ハイトピア伊賀5階 学習室2

■出席委員：15名

岡山 恵美子委員、中嶋 恭子委員、増永 秀美委員、澤 和枝委員、
家城 円委員、竹島 みち子委員、松永 愛委員、松村 幸世委員、
茶本 康一委員、吉川 英毅委員、瀧本 志津代委員、柴田 正美委員、
松田 昌子委員、松尾 明彦委員、岡野 裕行委員

■欠席委員：なし

■市出席者：谷口教育長、川部教育委員会事務局長、小林上野図書館長、川口生涯学習課長、
高見生涯学習課主幹、西口主任

■傍聴者：なし

開 会 （14：30）

【会議の公開についての説明】

この会議は、伊賀市子ども健全育成施策検討委員会条例に基づき開催し、伊賀市審議会等の会議の公開に関する要綱により、会議を公開し、会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご理解ご了解をお願いする。合わせて、会議録作成のための録音と会議録の公開についてご了承をお願いする。

【教育長あいさつ】

【委員委嘱状交付】

【委員自己紹介、市出席者紹介】

【会長・副会長の選任】

【諮問】第三次伊賀市子ども読書活動推進計画の策定について諮問

教育長

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項に基づき、本市の子どもの読書活動を推進するための基本的な計画として、その具体的な指針となる「第三次伊賀市子ども読書活動推進計画」を策定したいので、貴委員会の意見を求める。

令和6年10月23日 伊賀市教育委員会 教育長 谷口 修一

【資料の確認】

○事項書

○令和6年度伊賀市子ども健全育成施策検討委員会委員名簿

○伊賀市子ども読書活動推進計画の策定の経緯について〔資料1〕

○第三次伊賀市子ども読書活動推進計画の策定内容について〔資料2〕

○第三次伊賀市子ども読書活動推進計画策定方針（案）〔資料3〕

○第三次伊賀市子ども読書活動推進計画策定に係るスケジュール（案）〔資料4〕

○伊賀市子どもの読書に関するアンケートについて〔資料5〕

・小学校2年生アンケート ・小学校5年生アンケート

・中学校2年生・高校2年生アンケート 保護者アンケート

○伊賀市子ども健全育成施策検討委員会条例

- (別添資料1) 全国学力・学習状況調査質問調査より
- (別添資料2) 2023年度「国語に関する世論調査」に係る新聞記事
- (別添資料3) これからの図書館サービスについて
- (別添資料4) 第二次伊賀市子ども読書活動推進計画
- (別添資料5) 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「第四次三重県子ども読書活動推進計画」の二次元コード表

事務局

これより議事に移る。伊賀市子ども健全育成施策検討委員会条例第6条に「委員会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。」とあるため、ここからの進行は岡野会長にお願いする。

【協議事項】

- (1) 伊賀市子ども読書活動推進計画の策定の経緯について〔資料1〕

議長

それでは事項書に従い、順次進める。

まず、協議事項1「伊賀市子ども読書活動推進計画の策定の経緯について」事務局から説明をお願いします。

事務局

資料1及び別添資料1・2説明。

別添資料3図書館長より説明。

議長

以上で説明が終了した。何かご質問等あるか。

委員

資料1の裏面(5)の成果と課題で、社会全体で子どもの読書活動の重要性が徐々に理解され、この前はよかったということが書いてあるが、具体的にどんな活動によって理解されていったのかわかれば教えてほしい。その後、読書量が減っていているのは、それよりもスマホ等が急激に利用されることによってこのような結果になったのかどうかを教えてほしい。

事務局

具体的な活動については、別添資料4の第二次計画をご覧ください。国は国で計画をあげ、県は法律や国の計画に基づいて推進計画を作る。伊賀市も第一次、そして第二次の推進計画に基づいて進めている。具体的には、いろんな中身がある。第二次の推進計画でいうと、5ページに家庭の役割について記載している。6ページが具体的な方策ということで、読書活動に理解を深める取組、読書を始めるきっかけを作る、環境整備・読書活動の啓発というような取組を進めてきた。それから地域においては、7ページから8ページに今後の方策として書かせていただいたことを、第二次の期間では実際に活動として行っていただいていた。図書資料の充実だとか図書館・図書室の施設の整備・サービスの充実等々、このような記載

をしている中身について、整備や啓発を行ってきている。より具体的には市役所の庁内の各課から取組を上げていただき、毎年進行管理をしてきている。進行管理については、各課から細かい事業を上げていただき、計画期間中は進行管理をしてきて読書活動の推進を図ってきた。具体的な取組という方法は沢山ある。資料を皆さんに回覧させていただく。

議長

他にご質問等あるか。

委員

資料1の2ページ目のところの下から2つ目の段落で、伊賀市の「しかしながら、近年の子どもを取り巻く環境の急激な変化は」の段落のところ、伊賀市の数値変化が載っている所で、確かに前回は児童72.2%、生徒74.8%、令和5年度は児童が71.0%、生徒60.3%と下がってきたというニュアンスが載っているが、別添資料1ページ目を見ると、それでも全国平均よりは中学校3年生が上回っている。まだ踏ん張っているのかなという印象もなくはない。小学校6年生に関して、全国もかなり下がっている、全国平均に近づいてくるくらいの減り方に見えなくもない。下から2段目の段落の文末で、「特に生徒は大きく下回りました」というのは、伊賀市がダメな感じのニュアンスになっている。それでも中3だったら全国平均を上回っている、みたいな解釈もできなくはないのかなという気もする。これはこのままで全然おかしくはなく、今はだめだから頑張ろうという回答もできる。あるいは中学3年生に関しては全国よりぎりぎり0.3%上回っている、まだまだ伊賀市は頑張れるみたいなニュアンスにももっていけるような気はする。

委員

この資料はかなり前の資料、平成29年度となっている。

事務局

この推進計画自体が平成29年度で一旦ストップしていたので、ここまでの資料しかない。

委員

今、既にやっていない活動が載っていたので確認のため聞いた。

事務局

第二次の計画期間中は意外と数値的には改善してきていたが、その後コロナの影響など様々な世界の大きな変化の中で、子どもたちの読書離れが進んできてしまっている状況かと考えている。

委員

小学校は、前回の推進計画の時と比べて、子どもたちが端末を持っている・スマートフォンを持っている状況がかなり増えた。低年齢化していて1年生でもたくさん持っているし、もしかすると就学前のお子さんが自分用の端末を持っているご家庭もあり、家へ帰ったらついそちらへ行ってしまう。おうちの方もなかなか多忙の中で、スマートフォンで動画を見させておいたら手がかからないということで、小さい子どもたちがものすごく巧みに端末を操作して使っている。安易に周りにそうなるような状況が前回の計画からするとかな

り進んでいるのかなというのを肌で感じたりしている。また、ここの経緯の中に出ていないが、学校の方で懸念しているのは全国学力学習状況調査の質問によると、伊賀市は全国でもものすごく家庭学習の時間が短い。愕然とするぐらい少なく、そのことと読書量が少なくなっているのは、どちらもスクリーンタイムに大負けしているっていう感じで、読書が少ないことで学力と相関関係にある。逆に子どもが期待している読書活動が推進されることで、学力面でもいい影響が出てきたらいいというようなことを現場では感じている。

事務局

言われるとおりがかなと私自身も思う。読書活動の意義に書かせいただいたが、読書というのは学力に直結するような大きな取組と考えているので、是非読書活動を推進していき、子どもたちの学力向上にも繋げていきたい。

教育長

コロナ前とコロナ後とは、大きく違うという状況かと思っている。別添資料2の9月18日の新聞に掲載された「国語に関する世論調査」の結果によると、2013年と2018年の調査項目はほとんど変わらない。コロナが明けた2023年になると、月に1冊も本を読まない人が6割、大人も読まなくなっている。子どもたちもその間コロナ禍で学校に行けなかった時期があって、学校ではタブレットが普及した。いろんな形で子どもたちにもスマホなどの情報機器が入ってきた。大人もSNSが流行ってきたおかげで、短い文章や動画に変わってきた。そうすると、なかなか本を読む機会を持たない。1日の限られた時間の中で、どうしても勉強する時間が少ない、読書量が少ないということになってくる。

私達も教育委員会として、子どもたちに家庭学習を増やして本を読むのを多くしようと、何回も家庭に呼びかけてきている。家庭学習の仕方等、これまでいろんなものを配って、家庭読書を増やしましょうと何回も話をしたが、一向に伸びなかったというのが現状である。今はどうしているかという、学校内でたくさん本を読ませる環境を作ろうと、去年から学校の本の整備を進めて、図書館へ行きやすくしてきた。そのおかげで、今年は市へ出す読書感想文も非常に多くなってきている。コロナ禍でデジタル化が進んだので大人も子どもも影響を受けてしまっているが、これをいかに読書の方に振り返すかが計画の大事なポイントと思っている。

委員

別添資料①の中学校3年生のところの「読書はすきですか」のすきが漢字になっていない。

事務局

訂正する。

議長

他にご質問等あるか。

(2) 第三次伊賀市子ども読書活動推進計画の策定内容について〔資料2〕

議長

続いて、協議事項2「第三次伊賀市子ども読書活動推進計画の策定内容について」事務局から説明をお願いします。

事務局

資料 2、別添資料 4・5 説明。

議長

何かご質問等あるか。

委員

1つは別添資料 1 に基づいて書かかかっていると聞いたが、伊賀市ならではの環境、例えば、外国につながる生徒がすごく多くて読書バリアフリーに関することとか、子どもたちへの対応をどうしていくかという部分に関して、少し抜けている部分があるかなと思う。伊賀市ならではの環境についての事をどこかに入れていただきたい。それから 2 つ目、3 の計画の総合的な推進に必要な方策の部分で、ボランティアに対する支援しかないが、各学校を回っていくような司書の立場の人がいるなど、人に対する支援みたいなことに関しての言及がどこにもないので、そういうことに関しては検討していただけるのか。

事務局

委員言われるように、伊賀市には外国につながる子どもたちが沢山いる。その子どもたちへの配慮はもちろん必要なことである。実は家庭・地域・学校等の中で、そのような外国につながる子どもたちへの対応について記載していきたいと考えている。第二次の計画の中でもそのことは記載している。別添資料 4 の 9 ページをご覧ください。地域という中に外国語を母語とする子どもへの対応を記載、それからまた 13 ページの学校等の中で幼稚園・保育所（園）の取組のところ、15 ページの小・中学校の取組のところでもそのような記載をしている。第二次の記載も踏まえて第三次でもご意見をいただいたように、バリアフリーの事も入れていきたいと考えている。もう 1 点の学校司書については、確かにボランティアに対する支援・学校司書の配置というあたりで、小中学校にも司書の配置が進んできているような状況もあるので、そのようなことも記載していきたい。具体的に司書の記載について学校等の中で記載をさせていただくか、ボランティアに対する支援等のあたりになるかは今後検討させていただきたいが、それでいいか。

委員

はい。

議長

その他いかがか。

教育長

今、外国の子どもたちの話と学校司書の話があったが、どうしたら子どもたちが本を読んでいけるかとか、方策では家庭・地域・学校等と分けて書いてあるが、そこが関連していかなくなかなか広がらない。どう学校から家庭へ広げていくか、また家庭から学校へ広げていくか、学校も地域に広がっていく。これがないとどうしてもある程度のところしか広がらない。夏休みに学校の図書館を開いているわけではないので、結局地域の図書館に行っていた。そうすると地域の図書館を子どもたちが知らない、なかなか地域の図書館に行かない。今どうしているかという、いがまちに DMG MORI さんの非常にいい図書館ができて

いる。図書館ができると、子どもたちがそこで学習したり本を読んだりする。近くの学校は学習時間にそこへ行くことによって、子どもたちは土曜日・日曜日でも図書館に行くようになる。社会見学で図書館に行くこともできる。子ども達も、今度は親にそこへ連れて行ってほしいということになる。私どもとしては、現に上野図書館があるので、各学校へは必ず社会見学に行ってもらいたいと言っている。近くの施設があったら、そこに行けるようになる。今までみたいに家庭・地域・学校で分けるだけではなくて、関係性をもっと大事にしていく必要があると思っている。そのことが読書活動を広げることになる。皆さんからも、ここをもっとこういうふうにとか、こういうことを項目に入れてほしいとか、あれば言ってもらいたい。読書活動を増やしていくことに繋がっていくようなご意見をいただきたいと思っている。

委員

前回の計画には家読（うちどく）という活動の記載がなかったような気がするが、それ以降に家読というのが広まりつつあるし、図書館とか図書室にも家読を勧めたポスターを貼らせていただいている。学校からおうちへ家読を勧めると、大人も子どもも目にするし、大人が読んでいる姿を見て子どもも読むというすごくいい活動だと思うので、そこを文字にして書いていただくとまた違うのかなと思う。

教育長

県も勧めている。

委員

だいぶ広がっているが、伊賀市ではどうなのかなと。その家読を勧めるにあたって家読ノートというのがあるが、家読ノートも「自分たちでしなさい」ではなくて、読書のきっかけづくりとしてこういう物から始めるといいのではないかなと思ったので、ぜひ検討をお願いしたい。

委員

読み聞かせボランティアで小学校とかに行くが、いかにして継続して子どもたちに本を読んでもらえるか、興味を持ってもらえるか。先ほどの委員の発言にもあったが、ノートではなくて、この前、壬生野小学校で提案したのは、しりとり好きな王様っていう本があって、どのような本を読んでいいかわからない子にとっては、本を手取るきっかけになると伝えた。学校へ提案はするけど、それを活用して子どもたちが続けてしりとり絵本とか読んでくれているのかな。

事務局

委員が言われた提案どおりにいっているかどうかかわからないが、学校は学校で様々な取組をしてくれている。学校でビブリオバトルをしたり、高校で本の紹介をするプレゼン大会をしたり、いろんな取組を進めているので、今いただいたことも参考にさせていただきながら進めていけたらと思う。

議長

その他いかがか？

(3) 第三次伊賀市子ども読書活動推進計画策定方針(案)〔資料3〕

議長

続いて、協議事項の3番「第三次伊賀市子ども読書活動推進計画策定方針(案)」について事務局から説明をお願いします。

事務局

資料3説明。

教育長

補足してよいか。策定の目的の中でコロナ後大きく状況が変化したことが書かれているが、市として新図書館の開館もあり、環境が変わってきた。大きくはこの2つが計画を作る目的であると思っているので、ご理解いただきたい。

委員

1か月に1冊も本を読まない中高生は、図書館に借りに行く子と学校の図書館にとかの区分があるのか。

事務局

学校の図書館または市の図書館・図書室を含めての不読率になっている。

委員

本を読むのが好きな小中校生は、やはり小さい時から継続して図書館とかに通っていた傾向がある。図書館へ必ず2週間に1回は行く親と全然興味のない親がいるので、小さい時から図書館通いの好きな親とか、図書館通いが習慣になっている人がいる家庭の子どもたちは、やっぱりこうなっていくのかなという感じがする。

教育長

保育園・幼稚園はどうか。

委員

幼稚園の中に図書室があるが、けっこう絵本がたくさんあって、子どもたちは好きだ。図書室の机が高いなど環境が整っていなかったため、もっと子どもが自分で読みたい、見たいと思ったときに行けるように環境を変えた。机を低くしたり椅子を低くしたり、本を取り出しやすいような環境にしたら、本当に子どもがよく行くようになった。なので、絵本を好きになる入口は子どもが小さい時だと思う。ご家庭もそうだが、幼稚園・保育園でまずは絵本が大好きになるというところを今大事にしている。それと、おうちの人を巻き込んでいくという活動をしていて、子どもが自分で見たい本を選んでおうちに持って帰るといったこともやっている。子どもが選んだ本なのでおうちの方が読み聞かせしたり、小学校・中学校のお兄ちゃん・お姉ちゃんが読んでくれたり、そういう取組も進めている。どんな絵本を子どもに与えたらいいかわからない方も多く、例えば5歳にはこの物語がいいと選定もしている。あえて物語の選定をして、またはそこにブックドクターに入ってもらって、絵本を選ぶ・提供していくやり方もしているし、小さい頃から親しみをもっていくというところがスタートになってくると思う。

委員

幼稚園児さんとよく似た部分もあるが、小さい子どもは触れ合いっていうところから入っていくと思っている。園の中で職員が子どもを膝の上に乗せて大事にしている。そうやって触れ合いを楽しむ遊びの一つとして読書があって、おうちの方にも子どもをしっかり見てほしいというところから、いろんな遊びも紹介している。その中の一つとして読書も勧めている。年に何回か便りも出してお伝えもさせてもらっている。保育園に預ける保護者は就労していることが基本になるので、子どもが選んだ本を最低週1回おうちに持って帰って、土日を含んでゆっくりおうちの方と触れ合いの時間を、読書を通してというところを大事にしている。中には忙しいということで、借りた本をそのまま週明けに戻してくるおうちもあるが、お母さんが図書館通いをされている子どもさんについては、しっかりと触れ合ってくれているなど感じている。子どもたちの話の中でそのことも聞かされるので、こちらがどのように勧めていくのかということと、お父さん・お母さんの就労というところで、自分達だけで子育てをされているしんどさもあってなかなか難しいこともある。

事務局

委員が言われるように、親御さんと一緒に本を読む習慣があれば、親御さんに図書館に連れて行ってもらったという経験から、自分も行こうかなと思う。小学校になったから図書館に行きましょうというのはたぶん無理だと思う。今どういう状況なのかというのが後ほどの事項にも出てくるが、アンケート調査を取らせていただく中で保護者の方の読書習慣があるかどうか読み聞かせをしているかどうか、そういうことをアンケートの中で聞かせていただいて、実態はどうなのかというのを見ていきたいと思っている。

委員

環境はとても大事だと思う。保育園、幼稚園の子どもは絶対本が好き。読んでもらうのが好き。でも、おうちの人にはなかなか読んでもらえない子どももいる。保育園とか幼稚園とか図書館で何度も同じ本を借りることもある。それが一番大事。何度も同じ本を借りる子どもに「もうこれ借りたから別のものにしなさい」というのではなく、子どもにはお気に入りの本がある。本来ならそれだけ好きなら本屋さんで買ってあげる、そういうのが本当はいい。ここに書いてある0～10冊お家に本がないって。子どもは本が好きなのに、このことにおうちの人が応えていない。家庭事情もあるかもしれないが、とても残念なこと。子どもの頃から好きな本って、大人になっても好き。大人になった親が、その子どもに読んであげる。そうやって繋がっていくと思う。子どもの頃に好きな本は大人になっても、いくつになっても好きなので、それがずっと繋がってきて本を好きになって、それこそ学力向上にも繋がっていく。こじつけかもしれないが、いい連鎖になっていくようにしてほしいと思う。保育園等の取組もいいことだし、図書館にもどんどん通ってもらいたい。でも、残念なのは図書館に来る家族が限られてきている。そこを何とか広げていってもらえるような活動があればと思う。

教育長

小さい時は本が好き。家がどんな環境であっても本を読んでもらいたい。全国学力学習状況調査の令和5年度で小学生71%、中学生66%は読書が好きと答えた。小学校の低学年を見ても、「読み聞かせしよう」と言えばみんな寄ってくるし、子どもは読んでもらうのは好きだと思う。中学校まで読み聞かせというわけにはいかないの、それを自分で読むとこ

ろへどう変えていくのか、そこに難しさがある。読書指導も含めて、自分から本を選んで自分で読んでいくというところへ学年が上がるにつれて変えていく必要があると思う。中学校では、その辺はどうか。

委員

中学校になってからだちょっと難しいかなと思う。中学校は朝の読書の時にはみんな一生懸命読んでいる。ほとんどの子が静かに読んで、ある子なんかは何日もかかってその朝の時間帯だけで分厚い本を読んでいる。家で読むというのは、宿題も増えて時間的にも難しいかなというところがある。朝の読書は充実している。今後、昼の休み時間にも広げたいが、中学校は昼休みが短いので昼に読書はなかなか難しいところがある。

委員

小学校かなと思いながらどきどきして聞いている。1年生が1学期初めて学校図書館に行く時に、家で図書館用の手提げ袋を作ってもら。真新しい手提げをもって図書館で2冊借りられる。それを一生懸命選ぶ。選べないと先生たちが声をかける。「校長先生これ借りた」「良かったね。楽しそうだね」というのが1学期ずっと続いていたので、間違いなくバトンが小学校へ渡っている。お話を聞かせていただきながら、自分で本を選んで自分で読む習慣というのをつくる時期が小学校なのだなと、ちょっと責任を感じている。

委員

小学校の読み聞かせは、1年生と2年生に行っている。3年生になるとなくなるが、1回ブックトークをしている。4年生にはこの28日に行く。3年生の知っている男の子に、「また来てよ」と言われる。西柘植小学校の読み聞かせに10年近く行っているの、最初に行った子は高校生になっている。個人の名前じゃなくて、グループ名が「お話の国アリス」という名前なので、“アリスさん”で覚えてくれている。

委員

うちの学校は3年生までしている。

委員

3年生という学年は大事。

委員

うちの娘も「3年生になったら読み聞かせの時間が無くなるから寂しい」と言っていた。いつも1限目に読み聞かせをしてもらって嬉しいからって、かぶりついて聞いていたみたい。後で先生に読んでくれたリストを書いてもらって、もう1回図書館で借りるといって喜んでそれをやっている。うちの子は今、大山田や上野図書館を回ったりしてずっと本を借りて喜んでやっている。ちゃんと字を読んでいるかどうかはわからないが、先ほども言われていたように、1冊好きな本があったらそればかり読んで、またしばらくしてまた借りてというようにしているので、これがずっと続いていったらいいなと思う。下の子に読み聞かせをしている時に、中学生の子もいっしょに聴いている。読み聞かせを聴くのが嬉しいわといって子ども2人共セリフまで覚えてしまっている。役割分担を決めていっしょにやろうかと言ってやったりもしているので、やはり小さい時から読んでいるとそういう習慣がつくのかなと

思う。子どもは2人しかいないので2人の子しか分からないけど、私はそう思う。小さい時からが大事なのかなと思う。

委員

3年生もやっているって学校によって違いがあるが、市として統一してやっているわけではなくて学校単位の判断ということか。

教育長

市として統一していない。学校ごとにボランティアの方に何年生までとお願いしている。中学校まで来てくれている団体もあった。

委員

3年生・4年生になったら何もしていないかという、教員が必要に応じてさせていただいている。読み聞かせのボランティアさんのような鮮やかに、感動的にみたいにはいかないが、全くないわけではなく授業の中でしている。

議長

何かご質問等あるか。

(4) 第三次伊賀市子ども読書活動推進計画策定に係るスケジュール(案)〔資料4〕

議長

続いて、協議事項4番「第三次伊賀市子ども読書活動推進計画策定に係るスケジュール(案)」について事務局から説明をお願いします。

事務局

資料4説明。

⇒特に質疑応答なし

(5) 伊賀市子どもの読書に関するアンケートについて〔資料5〕

議長

続いて、協議事項5「伊賀市子どもの読書に関するアンケートについて」事務局から説明をお願いします。

事務局

資料5説明。

議長

今の説明に対してご意見ご質問をお願いします。

委員

ここはどうかと思ったところについて言いたい。1つは小学校2年生の質問1「本を読むのが好きですか」の問いで、「好き」「どちらかというとき」と答えた子は次の2-2・2-3・2-4の質問へ続くが、「どちらかというとき嫌い」「嫌い」と答えた子は、3「なぜ本

を読むのが嫌いですか」の質問の後は、嫌いな子に関してはその部分がないので、これで調査的にはいいのかと気になった。意図的というか、嫌いな子はどのような風な状況なのか、選択してもらえよう質問を足してもいいのかなと思った。あと 13「学校の図書館に行ったのは何のためですか」というので、1から5まであるが、複数回答でいいのか、1個しかいけないのかよく分からない。紙媒体の資料なのでそう感じるのかもしれないが、子どもに答えてもらうときは「一つだけ回答してください」とか、「当てはまるもの全てに回答してください」ということを書いていただきたい。

事務局

1つ目に言われた「本を読むのが好きですか」という問いに対して「どちらかという嫌い」または「嫌い」と答えた子どもたちに対しても2-2・2-3・2-4と同じ質問項目を入れるといいということか。

委員

尋ね方はいろいろあると思うが、「好き」の子たちだけたくさん設問があるのに変だなという気がした。

事務局

ここについては検討させていただいてよいか。

委員

承認

議長

嫌いな人が家でどうだったのか、もう少し踏み込んで聞いた方が良いという意見か。

委員

そうだ。

事務局

2つ目の意見については、答えは一つを選ぶという風に考えている。

委員

そうすると、例えば学校で図書館へ行くのも授業で行ったり本を読むために行ったりがあると思うので、1個選ぶのはちょっと無理かなと思う。複数回答になるのかなと思うが。

事務局

もう一度、設問を全て確認しながら検討する。

議長

前回の29年度版のアンケートにならって、その時のやり方に沿っては。

事務局

実はそのときも一つだった。

事務局

当時は紙だったので、過去の回答を見ていないが、おそらく複数書いている子もいたのではないか。

議長

では、事務局で調整をお願いする。

委員

何故アンケートの対象が小学校2年生なのか。2年生はまだ幼い。3年生後半くらいなら、しっかりと自分はこれが好き、あれが好きと分かってくる。

事務局

前回の調査も2年生でやっている。あとは保育園の状況と、そこから小学校でどう変わってきたのを見られるのがこの辺かなと考えている。

委員

それだったらやっぱり3年生の方がいい。2-2で「小さい頃」っていう設問を「小さい子」にするのはどうかと思う。

事務局

ずいぶん前になるが、国が子どもと保護者に読書に関するアンケート調査をしたが、その時も小2・小5だった。そんなこともあって伊賀市も小2・小5に合わせて調査をしてきている。

議長

その他ご意見いかがか。

委員

このアンケートの結果は参考資料にすることだけど、アンケートした保護者とかには公開はしないのか。

事務局

アンケート結果については、お話ししてもらいたいと思っている。

委員

17番は「行かなかったのはどうしてですか」という理由を聞く設問になっている。これは図書館に行かなかった子どもに聞く設問になっているが、これがどう改善し、どう環境を整えればいいのかという答えが出てくるころかなと思う。逆に行く人も行かない人も「どんな図書館だったら行きたいと思いますか？」みたいな設問だと分かりやすいし、どう変えればいいのか受け手としても分かりやすくなるのではないかと思った。

議長

行かない理由より、行きたい理由を聞いた方がいいということか。

事務局

その辺は検討させていただく。

委員

小学5年生の間6・7の「本を読みますか」は、問6は漢字で、問7はひらがな表記になっているので、漢字の表記に統一した方がいい。

事務局

分かった。

委員

表記の仕方で、「()」と、「()」が混在しているので、統一した方がいい。括弧の後にマルの位置でお願いできればと思う。

事務局

分かった。

6 その他（各委員より）

議長

本日も協議いただく事項については全て終了した。せっかくの機会のため、全体を通して委員の皆様お一人お一人からご意見を頂戴できればと思う。座席の順にお願いしたい。

委員

子育て支援センターに務めているが、「これ読んで」と子どもに言われて、一生懸命読んでいるお母さんがいる。小さい時から子どもが求めてきたら、しっかり対応できる親御さんになってもらえるようなアンケート結果であればと思う。アンケートはもっと小さい親御さんには届かないが、それでもそう思う。

委員

私は柘植小学校の図書ボランティアをやっている。読み聞かせ等はずっと前からしているが、ボランティアなので自分たちがやりたいことをさせてもらっている。学校で読書指導することにまで足を突っ込むことができないのかなと思っているが、ただ何をやったらいいかも分かりにくいこともあるし、伊賀市でボランティア活動されている団体さんと情報交換ができる場があるなら教えてほしい。無ければ、ぜひそういうのができたらいいと思っている。

委員

なかなか読書に縁がなかったので意見等は出せなかったが、今の活動の中で子どもは外で元気にということやをずっと伝えてきていて、皆様のご意見を聞かせていただき、家の中でも読書とか重要なところがあると思った。

委員

22歳と19歳の成人した子どもがいるが、小さい時に絵本の読み聞かせをしていて、最近になって「こんな絵本があったね」「あんな絵本があったね」って言って、懐かしい話をするが増えてきた。今はスマホばかりで、残念ながら読書というのからは離れてしまっているけれど、小さいころから読んで聞かせてあげていたことが、その後の中で思い出させてくれるのかなということを感じた。今日参加させてもらって懐かしいと思うとともに、これからスマホ中心になっているところをまた読書に戻していただける活動をしていただけたらありがたいと思う。

委員

うちの下の子ですけれど、生まれた時からスマホが普通にある時代で生きているので、それが当たり前になっていると思うけど、それをどうやってうまく読書に繋げていけたらいいかなって、子育てする中で考えてきた。私は小さい時から子どもに本を読み聞かせたり、どうやったら楽しく聞いてもらえるかと思っていろいろ工夫したりしながらやってきたけど、今子どもが中学生になって、国語力っていうか読書をする・しないで国語だけじゃなくて、数学や理科やすべての読解力に繋がってくると痛感した。遅くても中学生になってもちゃんと本を読んで読解力をつけるようにしないといけないなと、今日つくづく感じた。皆さんにご意見を聞かせてもらって、ほんとにそうだなと思うことばかりですごくためになって良かった。

委員

0歳から6歳までの時に絵本に触れていくことが本当に大事だなと改めて今日思った。そこで育まれる愛着関係を乳幼児の間にしっかり作っていくことが大事だと思ったし、その関係が多分大きくなっていくにつれて本がやっぱり好きってことになっていくと思うので、また力を入れて頑張りたいなと思った。

委員

わが子のことになってしまうけど、本当に実際子どもが保育園の時にとても好きだった本を買ってあげられなくて、社会人になっていいおじさんになった息子が、「あれが気に入ってたんや」と他にもたくさん絵本を買ったけれど、「あれが良かったんだよ」ということをつくづく言われた。一つ後悔があって、「お気に入りの本はぜひ買ってあげてほしいな」と、それが個人的な意見。この第二次から第三次まで随分時間が空いてしまって、そのせいで読まない子が増えて学力が下がったと言いたくないけど、この三次でしっかりと検討していいものを作って、伊賀市で読書好きの子どもが増えるよう、皆さんと努力し頑張りたいと思う。

委員

子どもたちの毎日の暮らしを見ていると、人と関わる中で自分たちの気持ちの表現ができなくて、言葉や語彙力が少なくなってきた。うまく表現できないってことはやっぱり言葉を知らない。そういうところは読書でもフォローできるかなということで、保育園の中でも読書の時間を大事にしているが、子どもたちが好きなだけではなかなか繋がっていかない。やはり家庭とちゃんと連携しながら一緒に進めていけたらなということ、今日改めて思った。おうちの方にも読書が大切といった話をさせてもらっているが、実際にどのように読み聞か

せをすとか、コロナ禍があって貸出絵本もやれていなかった部分も大きかったかな。それをもう一度取り戻していきたい。実際に保育士がどのように読み聞かせをしているのか、おうちの方にも見てもらったり伝えたりすることで、何か感じてもらえたらなということをおもった。

委員

学力のベースになったり情緒面のベースになったり、読書の効果を挙げるときりがないと思うが、さっきからお話で出たように、子どもの頃に読んだお気に入りの絵本があったり人生の節目節目で影響を受けた本があったり、自分の印象に残る本に子どもたちも出合っほしいな、そういう可能性を広げられるような場に学校がなればいいなと思っっている。

委員

中学校で感じているのは、読書好きな子は家でもどんどん読んでいるし、読まない子は全く読まないということではっきりしている。家で全く読書をしていない子に対して、中学校から親の協力を得て何とか家で読書ができるようにというのは難しいのかなと感じる。それよりは学校での読書活動を充実させて、少しでも本を読むのが楽しいなと思ってもらえたらいいなと思っっている。

委員

保育園とか幼稚園とか小学校・中学校での様子なども聞かせていただいて、かなり今日だけでも勉強になったなっと思う。デジタルが悪いものみたいになっているけど、これからの時代はデジタルも絶対必要だと思っるので、デジタルも読書もっというのできるような環境づくりを今回の計画にも盛り込んでいく必要があるのかなと思っしたので、その点も議論できたらいい。

委員

読書に関わる環境等を聞かせていただいて、点字図書館にある資料や図書が環境の改善のために活用いただけるところはないかなと思っながらお話を聞かせていただいてた。文科省の調査では、公立小中学校1クラス35人の中にちょっと文字が読みづらい子どもさんが2・3人いるという統計になっているという話があったが、そんな子どもたちが読める本が点字図書館にあるので、進んで読んで本を好きになってもらいたい、ずっと読書が続けていってもらいたいと思っ聞かせていただいた。

委員

私自身もあんまり本が好きじゃなかったけど、ただやっぱり本を読みたいという気持ちが出てくるというのは何かに興味を持った時が一番じゃないかと思っ。たとえば歴史で戦国時代の武将が好きだったとか、信長が好き、徳川家康が好き、三国志が好きだとか、そういうのを何か子どもたちに興味を持っていただいて、1冊でも本読んでいただきたいと思っ。

委員

本が大事だということで、その本を子どもたちに見てもらっ環境を作るためにはお金がいる。そのことについて話が出てこないのは非常に残念なこと。できれば予算をどっかで取っくるとか、そういうことを積極的にこの提案の中に取り入れていただきたいなと思っ。

委員

計画はいろんな自治体で国も県も作っている。比較すると、それぞれの町の特徴が出てくる
ところであり、是非伊賀市らしい計画ができればいいなと思う。もちろん子どもたちのため
の計画だが、結局意識を変えていけるかのアイデアは大人たちで、その意識をちょっとずつ
変えていく。劇的にみんながそっちにいくというのはなかなか難しいと思うが、少しずつ子
どもたちの味方を増やすとか、読書環境に対しての意識改革をし、学校も家庭も地域もいろ
いろやっつけていかなければいけない内容だと思うので、そのあたりが届くような計画ができれ
ばなと思う。

議長

委員の皆様、ありがとうございました。そして、スムーズな進行にご協力いただき感謝申し
上げる。

事務局

会長様、スムーズな議事の進行、ありがとうございました。

委員の皆様には、長時間、熱心にご協議賜ったことに感謝申し上げます。本日ご協議いただい
たことを、これからの子ども読書活動推進計画の策定に役立ててまいります。

事務局長

本日は、長時間にわたり貴重なご意見を聞かせていただいた。皆様方のご意見から、小さな
頃からの読書をしていく環境づくり、そして子どもたちの読書に関する環境の変化なども大
きく変わっているというところも把握させていただいた。保育園・幼稚園・小学校・中学
校・そしてボランティアさん、私たち市の施策など、それぞれは取り組んではいるが、それ
をうまく連携していきながら効果を上げていくことが大事かなと思っている。そういった意
味では、皆様方にご検討いただいている計画というのはすごく重要なものになってくると考
るので、今後ともどうぞよろしく。